

3

道徳の時間に生かす 指導方法の工夫

(2) 話合いの工夫

指導のポイント

- 生徒が友達の考え方についての理解を深めたり、自分の考えを明確にしたりすることができるように工夫することが大切です。

具体的事例

話合いとは・・・

広く行われている指導方法で、主体的に道徳的实践力を身につける上で効果的な方法です。

〔 自分の意見の根拠や理由を明らかにする過程です。
生徒が相互に多様な考えを学び合い、切磋琢磨する時間です。 〕

○話合いのルール

(授業のオリエンテーションで確認しましょう)

◎話し方の基本

- ・～だと思えます。
- ・それは～だからです。
- ・〇〇さんと同じで、私も・・・
- ・〇〇さんの話を聞いて思ったのですが・・・
- ・〇〇さんの・・・ということについてもっと詳しく聞きたいのですが・・・



◎「聞く」から「聴く」へ

- ・話す人の目を見て聴く。
- ・うなずいて聴く。
- ・話が終わるまで聴く。
- ・相手の考えを聴いて、自分の考えを深める。

○話合いを深めるための手立て

話合いの効果を一層高めるには、教師が適切な指導・助言を行い、話合いを効果的に展開し、生徒一人一人の道徳的なものの見方や考え方を深めていくことが望まれる。

(中学校学習指導要領解説 道徳編P93)

☆教師の声かけ

- ・話合いを活性化させる教師の声かけ

例：「〇〇さんはそう考えたけれど、△△さんはどう思いますか。」

「□□さんの考えと同じで、何かつけ加えたいことはありますか。」

「◇◇さんの考えとは違う考えの人はいますか。」

- ・一人の考えを深める教師の声かけ

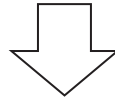
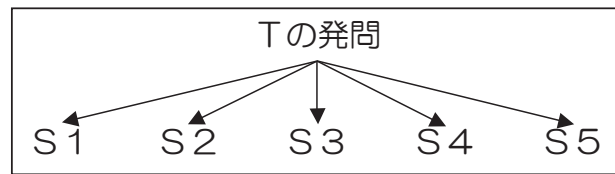
例：「それってどういうことか、もう少し詳しく教えてくださいませんか。」

「どうしてそのように考えましたか。」

「今、自分で言いながら、何か感じたことはありますか。」

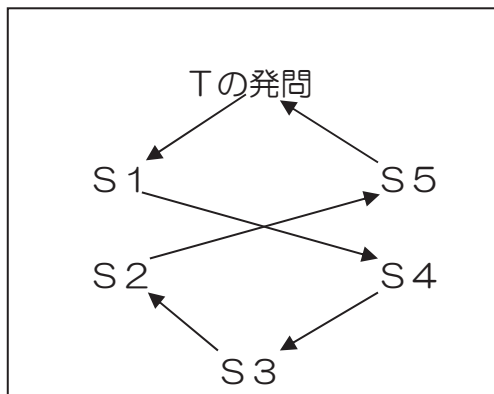
☆話合いのイメージ

【先生と生徒の一対一のやりとり】

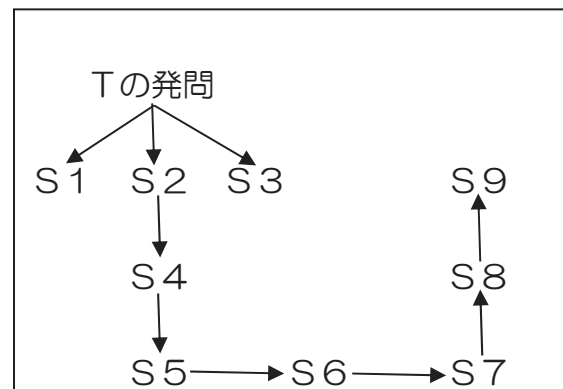


下記のような話合いになるように工夫しましょう。

【考えを交換し合う】

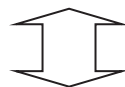


【一人の意見から考えを深める】



☆こんな授業に陥っていませんか？

- ▲単に、場面や主人公の気持ちを問い続けるだけの授業
→浅い、読解的な授業になっていないか？
- ▲自分の資料分析をそのまま出させるような誘導性の強い授業
→過度な教え込みの授業になっていないか？
- ▲指導のパターンが固定化して、それを常に優先していく授業
→指導過程が形骸化していないか？



教師と生徒の閉じられた受け応えではなく、相互作業を促し、聞き合いや議論が生まれるように配慮しましょう。

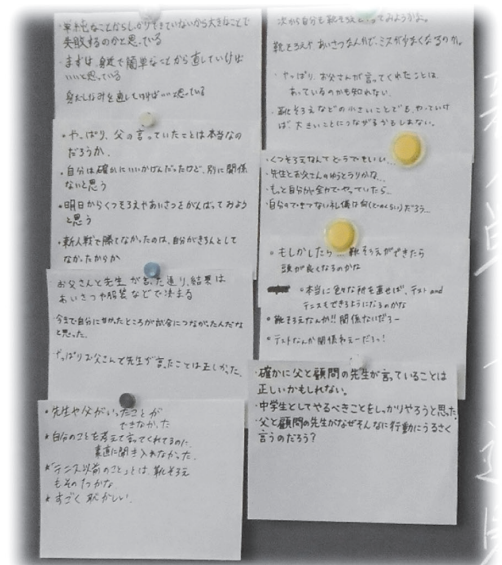
(例えば)

発問の工夫、補助発問の準備

それぞれの基本発問をとおして生徒の気持ちや考えをよく聞き、教師がさらに発問をしていくことで、生徒の本音を引き出すことができ、今後の生き方に生かせる話合いができるようになります。大切なのは、生徒の考えをよく聞き、いかに補助発問で生徒の考えをつなぎ、掘り下げていくかということです。

○話し合いの工夫の具体例

- 考えの立場や気持ちなどの類別や心情図、グラフなどでの視覚化
- 意図的指名
- 座席配置などの形態の工夫
- ペア、小グループ討議などの集団の工夫
- パネル討議、ディベート形式の形態 など



ポイント

- ただ話し合うのではなく、自分のこととして受け止め、「なぜ？」とさらに深く自己や他者と対話できるように工夫することが大切です。
- 効果的な「話し合い」をさせるためには、「話し合い」に至るまでの間に、話し合いたくなるような指導過程の工夫とともに、「話し合い」の結果から自分自身の成長に気付く終末への展開の工夫が必要です。

留意点

- 話し合いが効果的に行われるためには、道徳の時間だけでなく、日々、生活する学級の適切な環境と望ましい雰囲気が必要です。